

# 市長選 平井里美さん大健闘

## 現職相手に、互角のたたかい



狛江駅前で訴える平井里美氏

6月19日投開票された狛江市長選挙で平井里美候補（共産・社民・新社会・緑グ推薦）は、残念ながら当選にはあたりませんでした。1万2856票（得票率42・4%）を得て、現職の高橋都彦氏（自民・公明・民進・生活ネ推薦）を相手に互角にたたかいました。

今回の市長選挙の結果（6月19日投開票）	
高橋都彦氏	平井里美氏
17,433票	12,856票
（-3,933票）↑（+5,257票）	

推薦市議の市議選得票（昨年4月26日）	
高橋候補の陣営16人 （自民6、公明4、生活ネ2、民進1、無3）	平井候補の陣営6人 （共産5、社民1）
21,366票	7,599票

### 公約の実現、誰もが大切にされる狛江へがんばります

平井里美候補をつくる市民の会」を中心とした「野党+市民」の共闘の力と「小さな声を聞く狛江」という、さらに幅広い市民が参加する新しい共闘の力があつたからと思います。

平井里美氏は選挙後のあいさつで、「選挙を通じて、これまで聞けなかった声や会えなかった人に出会えた。手をしっかりと握って自らの要求を訴えられた方もいた。こうした声に応えていきたい」「弱い立場の人たちが切り捨てられることのない社会をつくるためにできることをやっつけていきたい」「今日がスタート。子どもたちや若者たちの未来のために、一緒に歩いていってほしい。ご支援ありがとうございました。」と語りました。

これは、20年間に及ぶ市民運動で培われた平井候補の人柄と政策が評価されたものであり、また矢野市民派市政を16年間支えてきた「豊かな狛江

が大切にされ、本心に安心して暮らせる狛江を実現するため、（1）上から目線で市民の声を聞かない市政から、自由にものが言え市民の立場に立った市政への転換、（2）生活困窮者への強権的な税金の取り立てなど弱い者いじめの市政から、暮らしを応援する市政への転換、（4）戦争への道、安保法制を容認する市

政から、人権と平和を守り発信する市政への転換を掲げてたかいました。

日本共産党は、これら平井候補の公約と政策の実現のためにひきつづき頑張ります。

### 高橋市長が平井陣営や議員を誹謗中傷 市長は8万市民の代表に相応しい発言を

#### 市広報での発言撤回求め申し入れ―共産党

高橋市長は選挙後の6月21日の庁内放送で「私は選挙中多くの心ない誹謗中傷を受けた」と語り7月15日付広報でも「私の誹謗中傷もあった」と述べ議員活動に対しても根拠なく「公職としての矜持や品格を疑わざるを得ない議員もいる」などと述べました。

これに対し日本共産党市議団は7月20日、「市長再任後の言動についての申し入れ」を行いました。

申し入れでは、市長は「多様な考えを持った8万市民の代表であり常に公正中立であるべき」「特に広報は：市民に市の施策や行事等を広く周知する

### 都知事選 鳥越俊太郎さん残念 134万票、狛江で9487票



7月31日 投票された都知事選挙で、鳥越俊太郎候補（写真）共産、民進、社民、生活、生活ネ推薦）は、134万票余を得て大健闘しましたが及びませんでした。

選挙戦で鳥越候補は、憲法を守り、大型開発優先から暮らし優先の都政に転換、待機

児ゼロ、特養の待機者ゼロ、給付制奨学金など「住んでよし」「働いてよし」「学んでよし」「環境によし」の東京を掲げ大奮闘しました。この選挙戦を通じて首都東京で野党と市民の共闘が発展しました。

日本共産党はひきつづき、選挙戦の中で寄せられたご意見なども生かしながら、鳥越氏が掲げた公約実現に全力で頑張ります。

小池百合子知事に対しては、小池氏が選挙中訴えた、保育園の待機児解消、コンパクトなオリンピック、舛添問題の追及などの公約の実行を迫るとともに、小池氏が引く継ぐという舛添都政の長期ビジョンは大型開発優先で福祉や暮らしを削るものであり、その転換を強く求めていきます。さらに小池氏は、過去に憲法9条の改悪や日本の核武装などの発言をしてきており、このような特異な立場を、都政に持ち込まないよう、みなさんと力を合わせて全力をあげます。

